公益社団法人 静岡県山林協会

森と人

2020年
391
5月15日

森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう

■表紙写真　題名：森の恵みに育まれて　　撮影地：伊豆市　　撮影者：佐藤美栄子氏（茅ヶ崎市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。　URL：https://www.moritohito.jp

INDEX

2 **令和2年度**
県森林・林業関係主要予算の概要（静岡県）

3 **県庁だより**（経済産業部　森林・林業局　森林計画課）
森林（もり）づくり県民税による荒廃森林の整備
～森の力再生事業の成果と今後の荒廃森林の再生について～

4・5 **事業体等取材No.15**（㈱フジイチ）
若い力と共に
山の木を活かす林業と製材業

6 **支部だより①**（裾野市農林振興課）
裾野市の林業施策と県施工による森林基幹道
「裾野愛鷹線」開設について

7 **支部だより②**（浜松市林業振興課）
浜松市における森林環境譲与税の活用

8 **本部情報**
静岡県山林協会の林業労働力確保支援について
（静岡県林業労働力確保支援センター）
第37回しずおか森林写真コンクール

令和２年度　県森林・林業関係主要予算の概要（静岡県）

令和２年度の県の森林・林業関係予算は、総額132億円で決定し、昨年度と同程度確保しました。

先端技術等による施業の効率化・省力化を図り、主伐・再造林を促進するため、「林業イノベーション推進事業」と「主伐型路網構築モデル事業」を新規に立ち上げました。

また、県産材製品の需要と販路を拡大するため、「住んでよし　しずおか木の家推進事業」に新たに民間非住宅部門の助成制度を創設するとともに、「県産材販路拡大事業」を拡充して、製材工場のＪＡＳ認証取得や製材工場等と需要者のマッチングを支援します。

さらに、「治山事業」など山地災害対策に係る予算を確保するとともに、中東遠地域における海岸防災林の再整備「ふじのくに森の防潮堤づくり」、「森の力再生事業」による荒廃森林の整備、野生鳥獣対策等の諸施策について引き続き取り組みます。

単位：千円

部局名	担当課	事業名	Ｒ２当初予算
経済産業部　森林・林業局	森林計画課	林業イノベーション推進事業費　※	106,000
		森林・林業再生推進事業費	11,000
		森林整備事務費	43,292
		森林認証取得促進事業費	2,300
		森林・林業関係団体事業費助成	17,960
		次世代林業基盤づくり交付金事業費	574,000
		低コスト主伐・再造林促進事業費	101,500
		農山漁村地域整備交付金事業費（森林）	1,164,000
		県単独森林整備事業費助成	39,867
		森の力再生事業費	1,216,700
		市町森林整備実施体制等支援事業費	55,800
		森林環境整備促進基金積立金	180,000
	森林計画課　計		3,512,419
	林業振興課	林業を支える元気な担い手支援事業費	9,380
		原木しいたけ生産力増強対策事業費助成	40,000
		森林を守り育てる人づくり推進事業費助成	11,200
		林業近代化資金利子補給金	9
		林業振興総合推進費	10,334
		住んでよし　しずおか木の家推進事業費助成	215,000
		中山間地域林業整備事業費助成（就業機会創出）	13,000
		県産材販路拡大事業費	16,400
		森林認証材販路拡大事業費（オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザ整備協力）	1,300
		ビジネス林業等担い手確保育成事業費	79,200
	林業振興課　計		395,823
	森林整備課	主伐型路網構築モデル事業費助成　※	48,900
		三保松原保全地域連携モデル確立事業費	2,490
		造林事業費	594,000
		しずおか林業再生プロジェクト推進事業費	29,000
		県単独森林病害虫獣総合対策事業費	44,300
		県営林道整備事業費	638,000
		団体営林道事業費	136,000
		県単独林道事業費	395,000
		集落間林道整備事業費	84,000
		中山間地域林業整備事業費（山村道路網整備）	129,000
		社会環境基盤重点林道整備事業費（地方特定）	104,000
		資源循環林地整備事業費	38,647
		森林整備地域活動支援事業費	16,544
		森林整備地域活動支援基金積立金	1
		間伐材搬出奨励事業費助成	113,000
		団体営過年災害林道復旧費	122,000
		現年災害林道復旧費	2,000
		団体営現年災害林道復旧費	415,000
	森林整備課　計		2,911,882

部局名	担当課	事業名	Ｒ２当初予算
経済産業部　森林・林業局	森林保全課	保安林整備事業費	20,475
		林地開発許可制度実施費	1,221
		治山事業費	1,505,000
		緊急治山事業費	501,000
		林地崩壊対策事業費	3,000
		県単独治山事業費	892,000
		災害等予防保全緊急対策事業費(治山)	382,000
		国直轄治山事業費負担金	682,000
		過年災害治山施設復旧費	289,000
		現年災害治山施設復旧費	888,000
		現年単独災害農林水産復旧費	50,000
	森林保全課　計		5,213,696
	森林・林業局　計		12,033,820

部局名	担当課	事業名	Ｒ２当初予算
河川砂防局　交通基盤部	砂防課	治山地すべり防止事業費	213,000
		災害関連緊急治山地すべり防止事業費	65,000
		県単独治山地すべり防止事業費	74,000
	砂防課　計		352,000
	河川砂防局　合計		352,000

部局名	担当課	事業名	Ｒ２当初予算
くらし・環境部　環境局	環境政策課	環境教育推進事業費	4,626
		地球に優しい"ふじのくに"推進事業費	387
	環境政策課　計		5,013
	環境ふれあい課	県民参加の森づくり・緑化推進事業費	4,160
		県有林管理事業費	35,000
		自然ふれあい施設管理運営費	22,900
		自然ふれあい施設管理運営費Ⅱ	102,770
		観光施設整備事業費	143,000
		グリーンバンク事業費助成	84,000
		芝生文化創造プロジェクト事業費	6,600
		園庭・校庭の芝生化推進事業費　※	3,000
	環境ふれあい課　計		401,430
	自然保護課	生物多様性推進事業費	4,020
		野生鳥獣緊急対策事業費	350,000
		富士山環境保全推進事業費	13,787
		自然環境保全総合対策事業費	7,792
		野生生物保護管理推進事業費	27,281
	自然保護課　計		402,880
	環境局　合計		809,323

※ … 新規事業

森林・林業関係予算　合計	13,195,143

県庁だより

森林（もり）づくり県民税による荒廃森林の整備

～森の力再生事業の成果と今後の荒廃森林の再生について～

経済産業部 森林・林業局 森林計画課

森林（もり）づくり県民税で県が進めている森の力再生事業の進捗状況や成果、市町と連携した森林整備などについて紹介いただきました。

○事業の概要及び成果

県では、森林の有する、山地災害の防止や水源のかん養等の公益的機能である「森の力」を回復するため、公益性が高いにもかかわらず所有者による整備が困難な森林で、緊急に整備を行う必要がある荒廃森林を対象に、平成18年度から「森林（もり）づくり県民税」を財源に整備を行っています。

平成18年度から平成27年度までの第１期に引き続き、平成28年度から令和７年度までの第２期計画（10年）では、11,200haを目標に整備に取り組んでいます。

第２期事業も順調に進み、令和元年度末で4,327ha（見込）の整備が完了し、進捗率は４年間で約４割です。

▲上：整備前　　下：整備後
手入れ不足の人工林を強度間伐
浜松市天竜区佐久間町

◇森林（もり）づくり県民税

県民税均等割超過課税方式 個人：年400円 法人：法人県民税均等割額の５％ （年1,000円～40,000円）

◇事業計画と実績

第１期（H18～27）	第２期（H28～R7）	
実績	全体計画	H28～R1 実績見込
12,374ha	11,200ha	4,327ha（39%）

○事業の効果

事業の実施により、直接的効果として下層植生の成長などにより「森の力」が回復するとともに、雇用創出や異業種の参入、木材利用など様々な波及効果がみられています。

▲上：整備前　　下：整備後
竹林皆伐により多様な広葉樹林化を促進
牧之原市切山、島田市切山

○評価委員会による評価と提言

外部有識者等からなる「静岡県森の力再生事業評価委員会」による検証の結果、「事業は適正に執行され、効果が期待できる。」との評価が示されるとともに、引き続き当初計画に基づき、公益的な機能を持つ森林の回復を図るため、事業を推進するよう提言を受けました。

▲整備３年後の下層植生の回復状況
沼津市宮本

○役割分担と協力、連携

国は、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るため、「森林環境税」及び「森林環境譲与税」を創設し、令和元年度から市町への森林環境譲与税の譲与が始まりました。県と市町は「森林（もり）づくり県民税」と「森林環境譲与税」の２つの税の使途や役割分担を明確にし、車の両輪となり、協力、連携して森林整備を進めています。

○荒廃森林の再生について県民の皆様のご意見を伺います。

「森林（もり）づくり県民税」の課税期間は令和２年度が最終年度となります。県では、令和２年度に、これまでの事業成果や森林整備に係る県と市町の役割分担などについて説明を行うとともに、今後の荒廃森林の再生について幅広いご意見をいただくため、７月から８月にかけて県内各地で「未来への森づくりタウンミーティング」を開催します。多くの県民の皆様にご参加いただき、ご意見をいただきますようお願いします。

タウンミーティングの問合せ先 森の力再生班　054-221-2613 又は各農林事務所森林整備課まで

事業体等取材 No.15

若い力と共に 山の木を活かす林業と製材業

▲石野社長(右)、内山山林部長(左)と 2018 年入社の大内さん

株式会社フジイチ

天竜材の伐採・搬出・製材・出荷まで一貫した事業を展開する株式会社フジイチの山林部を取材しました。

フジイチの歴史

株式会社フジイチは、浜松市天竜区で、森林の管理、立木の伐採、製材、製品の販売を一貫して行う事業体です。近年では少なくなった「立木の直接仕入れ」、「葉枯らし」、「天然乾燥」を行っており、付加価値の高い製品を供給しています。初代社長の内山銀佐久氏が横山町で製材業を始めたのが昭和21年。今年で創業74年と長い歴史を持ちます。その間、火災により工場が全焼したり、詐欺事件に巻き込まれるなどの災難にも遭いましたが、その都度立ち上がってきました。

現社長の石野さんは、７代目社長として平成26年に就任しました。林業家の家に生まれ育ったため、山への強い想いがあると言います。「僕は、祖父や父が育ててきた山のおかげで生きてきました。その素晴らしい山林の価値が無くなってしまうような状況の中で、山の木をなんとか活かしたいという想いが強くあります。持続可能な林業で重要なのは、山の木に付加価値を付けて、その利益を山に還元すること。そのことが天竜の美林を守り、山や水を守ることに繋がるので、天竜の山全体を背負っていると思って経営しています。」と石野社長。こうした考えで、天竜林業の復権に向け挑み続けてきたと言います。

架線系施業を行う山林部

山林部は正社員14名、請負２名の16名体制（全社員48名）。伐採・搬出のほか、持続可能な林業のために植林や育林も手がけています。素材生産では、集材機、ラジキャリー、ウッドライナー、タワーヤーダ等を有し、様々な架線系施業を行っています。車両系施業が多い今日、架線系施業を行っていることはフジイチの特徴の一つとなっています。車両系に適した現場や作業道の開設は協力事業体に依頼。逆に道が作れない場所の施業を依頼されることも。また、他の事業体からは「立木の評価」を依頼されることも多いと言います。こうした結果、水平連携の拠点となっており、原木の取扱量は増加しています。

架線系施業のため、山林部は基本２名で１班の班体制としています。「班はおおよそ１年に１度組み換えを行い、個人の能力を班の組み合わせで引き出すようにしています。」と山林部長の内山さんは言います。山林部は現場へ直行直帰する人も多く、就業時間を設けているものの、実際の作業時間の調整は班に任せています。何日間でどれだけの丸太が出たのか数字で結果が出るので、その中で時間を調整するのは各班の自由だと言います。「月給制ですが、出来高でプラスされる部分を残しているのですよ。自由って意外とプレッシャーがかかると思いますね。」と内山さん。道具もある程度は支給されますが、全てでは無いと言います。請負から正社員へ、日給制から月給制への流れが進む昨今ですが、この様な請負の要素を残した正社員・月給制は、個人の意識を高める良い側面があるのかもしれません。

▲新人による植栽

若い人を積極的に雇う

フジイチには山林部、製材部ともに多くの若い社員がいます。「学生の研修やインターンシップは全て受け入れています。」と石野社長。静岡大学については、大学が行う研修を受け入れているほか、静岡大学が窓口になり、全国の大学生が毎年やって来るそうです。また、10年ほど前からホームページを制作し情報発信しています。定期的に情報誌「天竜の杉檜と生きる」も発行。さらに、一般の方も実際に山へ入り林業作業を体験できる「天竜美林体験ツアー」も行っています。このように、外へ向けた情報発信が、若い社員の入社にも繋がっているようです。

「大学から就活イベントでブースを出してくれと言われても出しません。大企業のブースばかりが人気で、弊社の様な企業には誰も来ませんから。その代わり、研修に来た中で興味を持った学生に声をかけていくのです。」と石野社長。大半の学生にとって就職先を考える時に意識するのは企業のネームバリューでしょう。地元の中小企業は、企業内容に魅力を感じてもらうしかありません。研修やインターンシップで学生自身が実際に見て、体験して入社するというのは、ミスマッチも減

▲右から指導班長の瀧澤さんと高山さん、森下さん

り、良い方法なのではないでしょうか。入社後の定着率も高いと言います。

現場の声

新規採用者が山林部に入ると、１年目は指導班長のもとに付きます。そこで、１年間、下刈りなどを通して山を歩くことに慣れ、除間伐、地拵え、植林と一通りの作業を経験します。その後、２年目を担当する指導班長のもとへ。３年目以降は指導班を離れ、各班に配属という形で育てています。今回、植林の現場で、１年目を担当する指導班長の瀧澤武さん、昨年４月入社の森下奨太さん、今年１月入社の髙山真一さんにお話を伺いました。

森下さんと髙山さんはともに中途採用の30代。森下さんは以前、市外の森林組合の緊急雇用事業で林業を経験されたことがあるそうです。その後、造園業や農業を経て、やはり林業をやりたいとフジイチに入社しました。「林業の良さは次の世代に残る仕事だということだと思います。本当は地元の山をやりたかったのですが（笑）」と森下さん。髙山さんは大手企業の本社経理部で働いていました。趣味の登山で山間部に暮らす人々とも触れ合い、「もっと生活の軸を山に移したい」と林業を志したそうです。浜松出身だったことからフジイチのホームページを見て植林ツアーに参加。そしてフジイチの門を叩きます。「最初は社長に入社を断られました。どうしてもやりたいなら、実際に働いてみてから考えろと言われ、５月に２日間、７月に３日間働かせてもらいました。やっぱり山の中での仕事は大変でしたが気持ちが良かったですし、みなさんの素晴らしい技術を見て、自分も身に付けたいと思い、入社しました。」と髙山さん。前職から給料も減り、労災が多い職業なので悩んだ部分もあったと言いますが、やはり山への想いは強かったようです。オフィスワークをしていた頃に比べ、残業も無く、健康的な生活になったと言います。

他の林業事業体と違い、社内に製材部があることもフジイチの特徴の一つです。製材部から現場ごとに造材の指示があるとのことですが、「製材が求める丸太がどういうものかを常に考えながら造材しています。市場で売るよりも製材側に近いのは、やりがいにも繋がっていると思います。」と指導班長の瀧澤さん。次の工程を考えて仕事をすることが、モチベーションにも繋がっているようです。

社員とのコミュニケーション

石野社長は、社員とその子ども全員の誕生日にプレゼントを贈っているそうです。プレゼントは決して高価なものではないと言いますが、社員にとってその気づかいはとても嬉しいものではないでしょうか。また、不幸があった時は、お通夜には社長が全て行くとのこと。地元出身者だけが働いていた時代とは違い、会社と家族の接点は希薄になっていますが、こうした取組がご家族にとって会社の存在を近くし、安心できる要素になるのでしょう。

「僕の息子が勤めている大手企業の話を聞くと、福利厚生の手厚さではとてもかなわない。だから、大手企業並みとはいかないですが、できることはしたいと思っています。」住宅手当や子ども手当も作り、支給していると言います。石野社長のこうした“気づかい”が若い社員にとって愛情を感じる職場にしているのかもしれません。

慈父、時として厳父のような石野社長のもとに、山を愛し、木を愛する若い社員が多く集うフジイチ。明るい未来が感じられました。

支部だより①

裾野市の林業施策と県施工による森林基幹道「裾野愛鷹線」開設について

裾野市農林振興課

森林の適正管理や森林資源の利活用のため、市と県が進めている取組について紹介いただきました。

裾野市の森林の概況

本市は静岡県の東部に位置し、沼津市と御殿場市のほぼ中央に位置しています。市の面積は138.12㎢で、東西23.5㎞、南北23㎞に及び、市域は東が箱根山外輪山の分水嶺で神奈川県箱根町と接し、西は愛鷹山の越前岳、呼子岳、位牌岳で富士市と、大野原で御殿場市と、南は愛鷹山及び箱根山のすそので三島市、長泉町と接しており、豊かな自然に囲まれています。

昭和27年に実施された全国植樹祭を契機に造林事業が行われ、箱根外輪山はヒノキ、愛鷹山系はスギの産地として、全国でも有数の森林地帯を形成しています。裾野市の森林面積は8,723haで市域の約60％を占めています。

裾野市における主な林業関係施策

1　間伐事業

①市単間伐事業

裾野市域の森林面積の内約70％は手入れの必要なスギやヒノキの人工林で占められています。そのため、森林組合の育成と、貴重な財産を守りより価値のあるものにすること、災害に強く地下水を函養する森林を育てることを目的として、間伐事業を推進しています。県による補助事業の活用はもちろん、市単独事業として市民所有の山林は負担金なし（市外の方の所有林は１/4負担）での間伐を、裾野市森林組合への補助事業により実施しています。

②東京2020オリンピック自転車競技ロードレースコースの森林整備

裾野市は、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのコースの一部として選ばれました。

世界中からやってくるトップアスリートが競技に集中できるような環境づくりの一つとして、コース沿線の森林整備に取り組みました。

道路沿いの立木が成長し、日照や見通しが悪くなっていましたが、山林所有者様の理解と、県東部農林事務所、裾野市森林組合の協力により、日当たりがよく、見通しも良い道路に生まれ変わりました。

2　木材の有効利用

①土砂流出防止柵の設置

治山対策として、間伐材の活用による長さ４ｍ×高さ0.5mの土砂流出防止柵を毎年設置しています。令和元年度は347基を設置し、林地保全と木材の有効利用を促進しました。

②方針の策定

平成25年度より「裾野市公共建築物等の木材の利用の促進に関する方針」を定め、有効利用を促進しています。

3　林道の整備

●森林基幹道「裾野愛鷹線」

裾野市北部～西部に広がる愛鷹山麓には、50年生を超えたスギ・ヒノキの人工林が多くあり、伐採適齢期を迎えていますが、木材価格が低迷し林業経営が困難な状況の中、山林の維持管理が滞り、土砂災害防止、水源涵養等の機能が失われつつあり、近年頻繁に発生している大雨による災害も懸念されております。

このことから、連携のない既設林道５路線を繋ぎ幹線となる森林基幹道「裾野愛鷹線」を整備する事業が、静岡県により平成26年度から始まり、令和元年度までに延長1,848mが開設されています。

この森林基幹道の整備により、愛鷹山麓の人工林のほとんどが整備可能となり、効率的な森林整備計画を立てることが可能になります。

また、富士木材センターに通じている国道469号線と直接アクセスできることで、木材運搬が容易になり、地域林業の活性化にも寄与することが期待されています。

併せて、受益面積は約1,900haとなるため、190haの森林整備を目標に森林所有者への働きかけを行っています。

※あくまでイメージであり、実際の林道の線形とは異なります。

最後に

富士山の世界文化遺産登録を機に、富士山周辺の景観及び環境の保全・美化の必要性が一層高まっています。文字通り富士山の裾野に広がるわが裾野市は、「森林も富士山の景観を形成する重要な要素のひとつである」との認識のもと、今後とも森林開発と森林景観及び環境保全・美化の適正なバランスに配慮した施策を展開してまいりたいと考えています。

支部だより②

浜松市における森林環境譲与税の活用

浜松市産業部林業振興課　副主幹　藤江俊允

▲【丸太がモチーフのラッピングバス、天竜材が東京2020大会関連施設で使用されることなどをPR】

森林環境譲与税を活用し、持続可能な森林経営・管理や天竜材の利用促進などに向け実施した事業について紹介いただきました。

「森林環境譲与税がスタート！」これが、昨年度の森林・林業関係者の関心事のひとつでした。

浜松市は、令和元年度、約１億21百万円の譲与を受けました。そして、この譲与税を日本三大人工美林のひとつである「天竜美林」が、今後も継続して多面的機能が発揮できるよう、そして、生産された天竜材の流通拡大が進み、FSC森林認証に基づいた、持続可能な林業経営・管理が実現することを目指し、次の事業を実施しました。

1　森林経営管理事業

森林経営管理法に基づき、適切に管理されていない森林について、森林所有者の意向確認、経営管理権集積計画等の作成、同意の取得等を実施。森林経営計画樹立地が近接し、一体として森林施業が見込める森林を対象とし、経営管理権を設定せず民間事業者の森林施業を促進することを優先する「浜松市版新たな森林管理システム」とした。

(1) 事業費（全額譲与税）／
14,278千円（Ｒ１見込）

(2) 事業期間／
令和元年７月～令和元年12月

(3) 事業内容／
・適切に整備されていない森林を林業事業体に繋げるため、森林所有者への意向確認等を行い、次年度以降の森林整備に繋げる。

(4) 事業量
・４地区160.6ha、96人の森林所有者に意向を確認したところ、100ha以上の森林について森林経営計画策定に同意済。
・今後は同地区で利用間伐65ha、保育間伐34haを実施する予定。

▲引佐地域での説明会（令和元年10月25日）

2　森林環境教育推進事業

市内外を問わず幅広い世代、団体等を対象にした森林環境教育の受入れ体制を整備することを目的に実施。

(1) 事業費（全額譲与税）／
1,961千円（Ｒ１見込）

(2) 事業期間／
令和元年７月～令和２年３月

(3) 事業内容／
・森林環境教育プログラム及びパンフレットを作成するとともに、森林環境教育の試験的受入れを実施。
・本事業により受入れ団体「天竜こころの森ネットワーク」が発足。

▲首都圏の高校の林業体験受入の様子（令和元年10月17日）

3　FSC認証材利用拡大推進事業

天竜材（FSC認証材）の認知度向上や新たな利用価値を創出し、天竜材の地産地消・地産外商を積極的に推進することを目的に実施。

(1) 事業費（全額譲与税）／
7,514千円（Ｒ１見込）

(2) 事業内容／
・天竜材（FSC認証材）のPRを目的とした展示会への出展やラッピングバスの運行、ノベルティの製作。

4　その他

(1) 森林整備・林業振興事業／主伐に関する再造林等の作業や主伐材の搬出費用に対する助成
（16,036千円：Ｒ１見込）

(2) 林業従事者助成事業／安全装備、人件費、健康診断等への補助
（7,414千円：Ｒ１見込）

今年度、浜松市では、森林環境譲与税の中長期的な活用計画を策定する予定です。併せて、行政内部だけでなく外部の関係者等の意見を反映させて策定するため、地元関係者や有識者で組織する「浜松市森林・林業未来構想会議」を立ち上げる予定です。

今後、この森林環境譲与税が、本市の持続可能な森林経営・管理や木材利用に効果的・効率的に活用されるよう、林業振興課一丸となって業務に取り組んでいきます。

本部情報

静岡県山林協会の林業労働力確保支援について

静岡県林業労働力確保支援センター

▲林業体験ワークショップ

はじめに

山林協会では、県や静岡県森林組合連合会、静岡県木材協同組合連合会と連携し、各種の取組を通して、新規就業者の確保、技術者の育成を支援しています。

今年度の主な取組は以下のとおりです。

林業就業への一歩

○林業出前講座・コラボ

高校生を対象とした「出前講座」や経営体とのコラボレーション活動を実施します。

林業の最新技術を学び、体験談を聴き、林業就業の可能性を広げます。

○しずおか森林（もり）の仕事見学会

実際の現場を自分の目で見て知る「現場見学会」を開催します。

伐採現場や木材市場、製材工場を見学し、「林業の魅力」を知り、林業就業への具体化につなげます。

▲高性能林業機械の現場見学

○しずおか森林（もり）の仕事ガイダンス

林業の現場で働く技術者や採用者の話が聞ける「就業相談会」を開催します。就業条件や現場の生の声・実情を聞ける絶好の機会になっています。昨年度は３回開催し、163名の参加がありました。

今年度はさらに拡充し、経営体のホームページ開設や民間合同就職相談会への出展にも助成します。

▲ガイダンス会場の相談ブース

現場での不安解消

○林業就業支援研修

林業の現場では、チェーンソーや刈払機等の使用、取扱いには安全教育が必要です。このため、就業前に、無料で基礎的な知識・技術・資格を習得できる研修を実施します。雇用者は基礎を学んだ人材を確保でき、新規就業者は、現場作業に不安なく従事できます。

▲チェーンソーの技術指導

○安全装備支援

現場作業に必要なヘルメットや防護服、チェーンソーなどの安全装備調達の助成（経費の1/2以内、1人当たり上限20万円）を行います。

○林業普及啓発活動

本県林業への新規就業につなげるため、多くの集客が見込めるアウトドアイベントに出展し、林業体験ワークショップを実施して幅広い年齢層にＰＲします。

キャリアアップの支援

新規就業者の確保だけでなく、森林技術者の技術向上も支援します。

○「緑の雇用事業」研修

「緑の雇用」事業のフォレストワーカー研修の監督検査を実施し、研修生や指導員が安全で効果的に実施できる体制を整えます。

▲現場ＯＪＴの状況

これらの実施時期や内容については、協会ホームページなどで随時お知らせします。

第37回しずおか森林写真コンクール

静岡県内の森林に関わるもので、森林や林業の素晴らしさ、大切さの普及啓発に役立つ作品を以下のジャンルにより募集しています。募集期間は令和2年8月31日まで。

応募要領等は、募集リーフレットや県山林協会ホームページで御確認ください。

① 森林の景観
② 林業・木材産業で働く人の姿
③ 造林、育林、木材生産の風景
④ 治山や林道など森林土木施設や工事の風景
⑤ 森林・林業体験や森林でのレクリエーションの風景
⑥ 森林と一体となった山村や生活の風景
⑦「森の恵み」や「森の力」がイメージされる風景

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会
編集・発行 静岡市葵区追手町9－6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C021550